

5 月 定 例 教 育 委 員 会
会 議 録

1. 招集年月日 令和7年5月15日(木)
2. 招集の場所 織田幹雄スクエア
3. 開会(開議) 令和7年5月15日(木) 9時00分宣告
4. 出席者
教育長 森山 真文 委員 林 孝 委員 米丸 禎宏
委員 大野 美恵子 委員 竹岡 美佳
5. 説明のため出席した者の職氏名
教育次長 新藤 正敏 学校教育課長 立田 春美
教育指導監 高木 和希 主幹 結城 和夏
生涯学習課長 下野 武士
6. 職務のため出席した者の職氏名
主幹 安田 昂祐
7. 議事日程
第1 会議録署名者の指名について 大野委員
第2 報告協議第19号 学校経営計画について
第3 議案 第13号 海田町社会教育委員の委嘱について
第4 報告協議第20号 年間スケジュールについて
第5 報告協議第21号 令和6年度小中学校卒業生の進路状況
について

第6 報告協議第22号 特別支援学級等の状況について

第7 報告協議第23号 通級指導教室の状況について

第8 報告協議第24号 生徒指導上の諸課題について

第9 報告協議第25号 各行事の開催及び結果等について

8. 議事の内容

9:00開始

○教育長（森山）

それでは5月教育委員会会議定例会を始めさせていただきたいと思
います。本日の会議録の署名は大野委員にお願いをしたいと思います。

よろしくお願いします。本日の議題は、お手元の議事日程のとおりで
ございます。生徒指導上の諸課題については非公開として扱わせてい
ただきたいと思しますので、よろしくお願いいたします。

（議案第19号）

○教育長（森山） それでは議事に入ります。報告協議第19号、学校
経営についてを議題といたします。各小中学校の校長先生、それから
教頭先生の方から説明をさせていただきます。毎年、海田小学校から
ということなんですけど、どうしましょう。いいですか。よろしくお
願ひいたします。

○海田小学校長（西村） おはようございます。海田小学校、4年目の
西村靖子です。どうぞよろしくお願いいたします。ここからは座って、
お配りしております、要覧にあります学校経営計画に沿って説明させ

ていただきます。学校経営理念、「心と心が響き合う学校」にして、学校教育目標を「感性を磨く～気づき 考え 行動する 子の育成～」に設定して、3年目となります。校長としてそれを実現させるための人材育成、学校づくりを行っていきたいと思います。昨年度は、声に出す、いわゆる音読、歌唱、振り返りなど、様々な教育活動を声に出すことに繋げ、一定の教育効果を上げてきました。今年度はそれに加えて、相手意識、目的意識を自覚した対話に力を入れていきたいと思います。まず、「確かな学力」「気付く子の育成」についてです。価値あるものに気付く子を育成するために、対話を重視した問題解決的な道德教育を充実して、振り返りを生かした授業改善を行っていきます。今年度配置して頂いた、チャレンジ道德加配を研究副主任にし、2週間で、西中学校区3校すべての学級にTTで関わり、連携を強化し学力の基幹を作っていきたいと考えています。定着の難しい児童も特性を持つ児童も一定数おりますが、通級指導教室の設置、中学年で取り組んでいるコグトレを生かして、個別最適な学びに向けた授業づくりも進めていきたいと考えています。次に、「豊かな心」「考える子の育成」についてです。人を大切にすることができる人を育成するために、コミュニケーションツールとして、場面に応じた挨拶に、今年度も全校で取り組んでいきます。縦割り班活動や委員会活動など、異学年で交流することの多い、特別活動を道德的実践力を発揮させる場として位置付けて、互いの良さを求め合う活動を多く取り入れています。

きます。また、不登校SSR推進校として、去年7年目を迎えています。スペシャルサポートルーム「あおぞら」の運用と保護者連携、関係機関連携により、長期欠席、不登校児童の登校日数の増加、それぞれの児童に応じた手だてによる好転の兆し、そのような成果が出てきていると感じています。さらにSSRの見方、考え方を広げて、学級経営、授業経営に生かしていきたいと考えています。次に、「健やかな体」「行動する子の育成」についてです。心とからだが健康な児童の育成するために、高く外遊びを推奨しています。外遊び推奨期間や、ポイント制を持ったり、全国や県の平均と比較して、低い、握力をつける運動を遊びなどに取り入れていたりしています。ここでも、友達と誘いあったりルールを決めたり、子ども達で考えるなど対話が重要になってくると考えて、安易に教師が主導するのではなく、子ども達が自分たちで解決できるように促したり、見守ったり、支援したりするようにしていきたいかなと思います。最後に「信頼される学校について」です。今年度、県費、町費を含め、11人の異動がありました。これまでメンター機能を発揮させて、互いに支え合う、そんな風土を育てていきたいと思っていますが、多くのメンバーが変わっても、その風土ができていないんじゃないかなと感じています。今日まで、あちらこちらで聞き合ったり、確認したりする姿が見られました。その中で今取り組んでいることや起こっていることについて、全教職員が声に出すこと対話することを組織的に行うことが本当に大切だと改めて

感じています。多くの新しいメンバーと声に出して、対話して、さらに組織を活性化させながら素直に、力をつけていきたいと考えています。また、今年度は、校舎建替基本構想を策定する年になります。地域から、人に愛されて、大切に育てている、コミュニティの核としての本校を、対話を通して教育過程の中で、子ども達自身がほっとして、伝統を感じながら、とらえることができるようにも取り組んでいきたいと思っています。今年度もどうぞよろしくお願いします。

○教育長（森山）引き続き、東小学校、お願いします。

○海田東小学校長（小村）海田東小学校長の小村です。どうぞよろしくお願ひいたします。座って説明いたします。海田東小学校につきましては学校要覧を用いてご説明をいたします。令和7年度、児童数は543名で通常学級18クラス、特別支援学級5クラスの計23学級でスタートしております。また、教職員数につきましては、主幹教諭を配置いただいております。合計54名でございます。規模としましては前年度と同定数でございます。特別支援学級、自閉症、障害特別支援学級につきまして2クラスおりますけれども、1クラスあたりの人数が、多い状況でございます。教室配置図にございますように、それぞれの部屋と半分だったのですけれども、今年は1部屋使えるように改正を行って、子ども達の学習環境を整えてですね、スタートしているところでございます。

それでは、学校経営計画について、学校要覧の中ページをご覧ください

い。本計画につきましては、昨年度までの海田東小学校の取り組みを継続しつつ、現状の課題をしっかりと踏まえて、それぞれの取り組みの質の向上を目指していこうという1年の素地を考えているところでございます。経営理念につきましては、海田東小学校の合言葉であります。「EAO」笑顔・あいさつ・思いやり、これを大切にし、海田東小学校で学んでよかったといえる、夢と志のある学校づくりを進めて参ります。

学校教育目標につきましては、「考え実践する海田東っ子」として、これは中学校区で目標としております。小中一貫して指導を進めて参りたいと考えております。そして、本校では目標の具体として、「EAO」の合言葉のもと、「よく学び、よく遊び、やさしく強く」そんな児童の育成を目指し、取り組みの具体を、図のように、整理をしておりますので、説明をいたします。まず、「よく学び」でございますけども、これは研究主題にもありますように、主体的、協働的に学び、自分の考えを深める児童の育成を目指し、特に今年度は、対話的で協働的な思考の場の充実を研究の柱とし、今年度10月22日には公開研究会を開催し、研究の一端を公開していく予定でございます。

この学びのところで大きな課題の1つとして、本の不読率の高さがございます。

これについては、取り組みを強化して参ります。早速ですが4月23日から行われておりました、子ども読書週間。これはとても良い機会

だという風にとらえて、早速読書推進委員会等で、取り組みの具体を決めて、取り組みを進めて参っているところでございます。

続いて、「よく遊び」についてでございますけども、児童の実態等を踏まえまして、基本的な生活習慣の定着を取り組みの柱として組織的に、また継続して取り組むことの必要性を全職員で共有して進めておるところでございます。

個々に支援が必要となる児童、家庭の状況をしっかり「報連相」の決定を行い、また、生徒指導連携シートを用いて、情報共有をして確実に全職員できるような仕組み、そして指導に生かせるように、行っているところでございます。

課題といたしましては、基礎体力の低下がございまして、体力テストにおきまして、県平均にいつてない結果が、昨年出ておりましてこれについてはですね、どのような取り組みを学校でしたらいいのかと1年、計画を立て直してですね、進めようとしているところでございます。

続いて、「やさしく強く」でございますが、自他の良さを認め合う集団づくりを取り組みの柱としております。自己肯定感を高めるために、教科横断的な視点からの道徳教育の充実を目指すとともに、生徒指導部が計画しております。良いところ見つけなどの取り組みを定期的に行い、より充実させていきたいという風に考えているところでございます。

最後になりますけども、信頼される学校となるために、迅速、誠実、丁寧、これを全職員がですね、実行できるようにまたホームページ等ですね、うまく活用して、タイムリーな情報発信ができるように心がけていこうというふうに考えているところでございます。

これで説明の方終わります。

○教育長（森山） それでは、海田西小学校なのですけど、出元校長先生は今入院されております。その関係で今日は山光教頭の方が来ていただいておりますので、よろしく願いいたします。

○海田西小学校教頭（山光） ご紹介いただきました、海田西小学校教頭の山光でございます。校長の方がですね、この会議に備えて説明の方を用意しておりますので、私の方から代読させていただきます。どうぞよろしく願いいたします。ここから座ってお話させていただきます。

資料の方は、学校経営構想図と学校評価表の1枚ものと学校要覧でございます。

世の中の多様化が進み、明確な解が存在しないかもしれないと感じ、あとは児童が予測不能な未来社会で生き抜くことを生活教育活動を展開することが重要であると考えます。そこで、今年度は学校教育目標を「自ら考え行動とともに伸びる」とし、目指す子ども像に「自律、協働、挑戦」を定めました。その態度がか・い・た・に・しの取り組みでありました。かんがえを表現する子、いっしょに学び励まし合う

子、たのしくたくましく学ぶ子にっこり笑顔でしあわせを実感する子でございます。これは協働的な学びと個別最適な学びを充実させることで、子どもが自分、もしくは自分達の学びや行動を、肯定的に捉えるようにし、その姿に、私たち教職員が丁寧に寄り添い、児童の活性化、そしてもっと知りたいなあといった、学びに向かう意欲を高めていくというものです。

学校評価表をご覧ください。充実した図書館環境での読書活動。挨拶を大切にし、児童会活動をより児童発信にすること。自身の運動習慣やスクリーンタイムを見つめ、児童が行動化することなどを挙げ、1人1台端末の有効活用による、学びに一層取り組んで参ります。

知徳体のうち、知と徳という点で、本年度の研究は西中学校区研究主題のもと、副題を「～探究のサイクルと「心」でつなげる道徳科の授業を通して～」としました。1昨年度までの3年間で開発したNIEを取り入れた探求のプログラム学習に、道徳科の授業を融合させた道徳プログラムを充実させていくことで、昨年度、全町道徳のもと児童の自己肯定感の向上を目指し、道徳科の授業改善を進めて参りました。その過程で、自己肯定感が低い児童の自己肯定感を高めることはなかなか容易ではないという実態とも向き合い、教育活動全体で取り組む道徳教育のさらなる充実をはかる必要性を感じているところがございます。新聞記事や、地域で出会った、人、物、ことに関わる学習活動と心で繋ぐ視点を取り入れた道徳科授業の充実を図って参ります。そ

して、SSR推進校として、今年度も児童が安心して過ごせる学校を作って参ります。

毎日SSRで過ごしていた児童が2名、現在は1日中自分の学級で生活しております。現在、主な利用児童は3名ですが、いずれも、部分利用でございます。SSR利用児童の自尊感情向上に関わり、個に応じた対応をとって参ります。

私ども、校長、教頭、管理職2名はそろって、2年目を迎えます。昨年度1年間、子ども達は地域に飛び出して多くの学びを得ました。学校ボランティアの皆様にも多大な協力をいただくことができました。地域、保護者の皆様の支えのもと、「地域丸ごと学校」という精神のもと、今後とも学校を作っていく所存でございます。今後とも御指導どうぞよろしく願いいたします。

○教育長（森山） それでは引き続きお願いいたします。南小学校。

○海田南小学校長（石川） 海田南小学校で3年目になりました、石川でございます。どうぞよろしく願いいたします。座ってさせていただきます。

お手元の学校経営計画をご覧ください。海田南ですけれども、学校教育目標は「考え実践する海田南っ子」これは今年度も海田中学校区で統一した学校教育目標です。

本校は目指す児童像として、「MKM 学ぶ子、気づかう子、認め合う子」をスローガンとして、知徳体のバランスのとれた児童の育成、

中でも折り合いをつけるということを目指しています。いろいろですね、自分の思いを大事にしながらも、相手のことも考えながら折り合いをつけていける児童を育てようとしています。保護者の方にも取り上げて欲しいと思ひまして、PTA 新聞の方にもそのような記述をしていただいているところです。

これからも、率先して目指していこうとしております。

それから、確かな学力の方で言いますと、授業づくりにおきましては、実態把握を大事にして、児童基点な授業を目指し、研修については、日々の授業の充実を目指したままにしていこうと思っています。

健やかな体では、外遊びの充実とともに、体育科授業の改善も推奨していこうと思っています。本校3年目の教員がですね、体育の中四国大会の方で実践発表する予定になっていますので、そういうものを機会としてとらえて、取り組んでいこうと思っています。

自律した心の方では、生徒指導面では先ほどの気づかう、認め合うことを大事にして、自他を認め合う活動によって、児童の自己肯定感を高めていきたいと思ひます。海田中学校区のテーマでもあります。そのためにも、児童を多面的に理解するために、教科担任制や組織的な生徒指導を取り入れております。

信頼される学校においては、何と言っても、教職員の姿が大事になっています。子どもを愛することや、笑顔と挨拶を大事にしていきます。保護者からのクレームや要望いろいろですけども、ほとんどが子ども

が家に帰って嫌なことがあった時に、そういったことが、原因になっております。または怪我をして帰ったとかですね、愛情に裏打ちされた指導をすることで、子どもを笑顔で家に帰すこと。何かあったら、丁寧に誠実に対応すること、これを日々繰り返すことによって、信頼される学校になると思っております。

教職員の方には、互いを思いやり、協働する教職員を重視したいと思っています。様々な理由で学級を空けざるをえない場合があります。支援をする方は、教職員として、それが仕事であるから当たり前。支援される方は、当たり前ではなくて有り難いことという思いを持っていただけるよう、明るく賑やかになることによって、気持ちよく働くことができる、心理的な安全性の高い職場を目指しています。それを、学校の一番の業務改善につながることを考えています。

昨年度は、教職員自身の体調不良が多くあってみんなで支えられました。このことで、体調を整えることの大切さを実感しております。

ですから、目指す教職員の中に、自分自身の心身の健康管理をするという教職員という項目を付け加えております。これは決して無理をしろというわけではありませんけども、健康管理も仕事のうち、意識を高く持って欲しいということで呼びかけています。

それは、昨年度からの課題としまして、学級担任がどのような学級を目指していくか、自分自身の考えを、はっきり言えるようにはっきり伝えているかっていうのが課題でありました。そこで、中ほどですけ

ども、充実した学級経営というのがあって入れております。心理的な安全性が保たれて、児童が生き生きとして学級は、学級担任が方針をはっきりと示し、繰り返し語っているという状況がありました。そこで、目指す教職員には、教育信条をもち、児童に語る教職員にも加えています。

業績評価にも目指す児童像や、学級像を維持するようにやりますし、年間を通じて意識を高くして、取り組むようにお願いしております。気掛かりなことがあります。男性の育休が2名おり、校長として何ができるか、別で、代員を探す等、組織を整えることをやっていこうと思えます。

今後とも御指導、御鞭撻よろしくお願いいたします。

○教育長（森山）引き続き海田中学校お願いします。

○海田中学校長（藤山）海田中学校校長の藤山英人と申します。いつもありがとうございます。私から御説明をします。

海田中学校の今年度の学校要覧を開いていただいたところに、学校経営計画がございます。そちらに沿って説明をさせていただきます。

海田中学校今年度の学校教育目標「考え、実践する」キーワードとして「自律・尊重・挑戦」この3つをキーワードに取り組みを進めて参ります。この「自律・尊重・挑戦」につきましては目指す生徒像のところに少し詳しく書いております。そのためには授業等の中、教育活動の中でですね、気づく、磨く、表す、この3つを柱として取り組み

を進めて参るというところでございます。

校内で、起案文書をあげさせるときには、この起案っていうのはこの気づく、磨く、表す、のどこに関わるものなのだろうというところも、チェックをしながらですね、提案をするようにという仕掛けを作っているところなんです。この考え、自律、実践するという自律・尊重・挑戦という言葉のコンセプトにつきましては、生徒一人一人が生涯にわたって主体的に学び続け、多様な人々と協働して、新たな価値を創造することで豊かな人生を送れるようにするというそういった思いが込められているものでございます。

今年度、校長として、海田中学校の方に着任をさせていただきました。これまで12年間、県教委の方でお世話になっており海田町は初めてでございます。そういったところの中です。ね。いろいろ今年度をどういうふうに進めていくか、年度末から、学校経営計画については、前任から引き継いだものなども読み込んでいきながら、昨年度からの流れで進めているところです。実際、校内の様子や職員室の様子を見ると、まさにこのことだなというふうに思ったところであります。

4月学校開きをする際にはですね、教職員に自分の経営方針を伝えるっていうことをするのだと思うのですが、やはり借り物の言葉になってしまうなというところで、実はこのとき私はこういう人ですということを学校開きの時にしたのと、先生方はこの学校をどういうふう感じていてどういうふうに住っていきたいというふうに思っています

かということ投げかけて、意見を集約しました。その時に教員から出てきたことは、ありがたいが溢れる学校にしたいなっていうことでそれは大人同士も、子どもに対してもなんだと、子ども達にもありがたいが溢れる学校にしたいというところがあります。

そういったところの中です、どういうふうに進めていくかというところの中で重点の3のところにあります、「自治的な活動の充実」が基本になってくるかなというふうに思っておりますが、その基盤になって参りますのが、2つの指定をいただいております。

1つは、道徳教育推進拠点地域事業でございます。道徳の授業をしっかりと充実させることによって、子ども達の情操を図っていききたい。特に自己肯定感をしっかりと高めていききたいなというところでありまして。それとあわせてですね、授業改善の1つの肝になるかなというふうに思っております。小学校、東小学校さんと南小学校さんに大変ご協力いただきまして授業を時間割の方、工夫していただいておりますね、うちの教員が、小学校に授業を行って、1つのコマは6年生の道徳の授業でそろえていただき、もう1つの授業は、5年生の道徳でそろえていただく。そして5年生のところには、専科の授業を絡めていただいて、振り返り等ということができるよう仕掛けをしていただきました。ここから学んでくる小学校との授業改善の取り組み、それを中学校にどう落とし込んでいくかっていうところは、今年度進めていきながら、各教科の学びの変革に向けた授業改善についても進めていきたいとい

うふうに思います。

もう1つは、不登校・登校しぶりの状況です。これは中学校がすべての学校、直面しているところでございます。うちの学校では適応指導教室、すずらん教室というところがあります。ここはかなり大きな役割を果たしているなというふうに思っているところであります。生徒指導の実践指定校でありながら、SSRとしての側面も評価をしていきながら、子ども達も、心を育てていきたいと思えます。

その際に今年度、本校は海田中校区のCSの方も、事務局としてさせていただいているところです。学校の現場の声だけでなく、地域の声も頂きながらですね、様々な取り組みを進めて、上手に進めて参りたいというふうに思っているところです。まだまだ、不十分なところありますけれども、このように歩んで参りたいと思えます。

どうぞよろしく願いいたします。

○教育長（森山）最後、海田西中学校。

○海田西中学校長（松本）はい。海田西中学校の松本でございます、4年目になります。お配りしていますのが学校要覧と学校経営計画のA4となっております。失礼します。

学校経営計画の今年は青バージョンに意味はありません。西中校区3校の共通テーマですね。「主体的に学びを深める児童生徒の育成」ということで、3つの柱でずっと研究の方を進めて参りましたけれど、今年は西中校区、西中学校の子ども達の様子を見ると、メタ認知って

のは去年までずっと力を入れてやってみたのですが振り返りとかですね自分の学びの方、見る力がついてきたなと思うのですが、あと、今物足りないなと思ってるのはコミュニケーション能力。自分を、自己を発信する力。ああいったものがちょっと弱いな、遠慮しているなっていうようなところが、先生方とお話する中で見えていきました。

そこで確かな学力のところ、まずはペア学習であるとか、グループ学習であるとか、こういったものを自己的に自分の考えを持った上で、こういったものを意図的に組んでいくというそういった授業づくりをみんなで進めようというような、確認をしたところでございます。

また、教員はですね、この学習の手を出し過ぎるっていうところもありましたので、やっぱり自分で決定をさせて、やらせてみて、また自分で改善をさせるっていうような自己決定の場を、やっぱりこちらも意図的に設定するように、ファシリテートできるような立ち位置でですね教員が関わっていく必要があるっていうような話をさしていただいたところなんです。

やっぱり子ども達をきっちり見ていく、子どもの変容を見ていくって言った視点も、必要な改善が必要なところがまだあるなと思うので、これは意図的に声かけていきたいなと思っています。あわせて西中の方は表現力、そこは特に力を入れているところで、ヤングスポットの方もですね、ずっと続けていまして、本日も掲載されているところがあります。自分も書けるんだっていう自信が、繋がってくればいい。

これは大切に、続けていきたいなと思っています。

豊かな心の方では、一番の核は道徳です。全町道徳ということですね、海小の方から先生が週1回来ていただいて、ほぼすべての道徳の時間にTTに入っています。事前の打ち合わせの道徳推進教師の部分ですね、打ち合わせをしてから、本当に道徳の授業の質はかなり高まってきているなというのが授業を見るだけでもわかっていますので、すごい大事な取り組みなので、この部分をですね、全体で広げていきたいなと思っています。合わせてI-checkは、年2回行っており、その変容を見ながらまだ足りない支援であるとか、変更するようなそんな場を設けているところです。

健やかな体のところなんですけど、先生がかなりの数変わられています。そうすると最初に思った中身から、どんどんどんどん薄らいでいくっていう状況があります。最初大事にしていた無言清掃や、あとは、立腰であったり、本当に当たり前前にやっていたというものが、やっぱり新たな風が吹くことによってですねそれがちょっとずつちょっとずつなんか形骸化していくっていうような、そんな動きが見られましたので、やっぱりまず西中で頑張って大事にしていくことはなんなんかねっていうこと伝統として30年以上続いていること、そういったものはですね、やっぱり大事に続けていく必要があるよ、受け継いでいく必要があるよということで、当たり前のようなことなのですが、こういった心構えですね。取り組みをしてですね、今年また新たに再ス

タートできたらなと思っているところでございます。

あとは信頼される学校のところではセキュリティポリシーの研修、全部の教員が受けております。そんな中でですね、やっぱり今、西中の方でもっと力入れないといけないのが、やっぱりクリアオフィス、クリアデスクなのかなと思っています。これは町全体で取り組みを進めているところなんだよということを伝えて、共通認識はさせていただいているんですが、統一行動っていうのがとっても大事なんだということをですね、日々伝えていくところがあります。

で、最後に要覧の方をお配りしております。生徒数の方なのですが、5月1日に、3年生でまたありましたので、81人になり、3クラスになりました。要覧の裏の方ですね、81人になって40人学級から27人学級が3つになったという形になります。また、この1年、いろいろとご心配をおかけいたします。どうぞまた力を貸していただけるよう、お願いいたします。以上です。

○教育長（森山）はい。ありがとうございました。それでは委員の皆様からご感想、ご意見、全体に関わってもいいですし個別の学校に対してでも構いませんのでお願いできたらと思います。

○委員（林）心の余裕がない。それぞれの学校、それぞれの条件に応じて様々、ばらつくのだなと。それぞれの状況に応じて変わってきているのかなと感じました。感想だったのかもしれないのですが。

自分らが意識できたという。それぞれ、共通して、皆さん対話を大事

にしていくってということも言われたように思います。対話ができるってというのは、どういう条件なのかな、ちょっと考えてみました。それを考えると、恐れがないっていうところでないと、中にも出ましたけれども、心理的な安全性っていう言葉が使えれば、どこもそれを基準にして、子どもの間にも教師の間にも、保護者の間にも、そういうところが大事になってもいいのかなっていうことを申されました。

話の中で、刺激を受けたのは、先生方同士が、それを繋げていこうとしているっていう風なところ、学校の中で考えられたらなと思いました。そういうところが、すごい大事なんだな。

合言葉があるのはいいですよ。それぞれの学校でそれぞれ大事にすることとかだと思いますね。出てくるってというのは、そういうところは、いいなっていうことを感じましたが、1つフェアになって、子どもにも、この言葉でっていうふうに伝えると、できるようなこと、それが教職員と子どもと関係を作るのかなと感じました。

6年生のクラス数は増えてきていますから。西小の場合はあれかもしれないですけど、学年経営っていうふうなところも意識されるといいのかなというふうに思いました。その中で、例えば道徳をですね、学級担任がやるのが当然なのですが、その1つのテーマで、その学年の全部やるみたいな、同じことを深化させていくと。

1人の先生がその同じテーマで、どのクラスもやるっていう、そう見えてくるところも違うのかな。それはまた、教科担任制ではないので

げたいなと思います。ありがとうございました。

○委員（竹岡）今日はありがとうございました。学校経営計画を順番に説明していただいて、すごく熱心に考えられていて、子ども達をどうしていくかことを、学校で考えていらっしゃるなというのがすごく感じました。

緻密ないろんなこの計画のところがあれば、枝葉でたくさん出ているのだろうけれども、やっぱり幹のところ、この学校経営理念ビジョンだとかっていうことを、やっぱりいつも立ち戻ることっていうのは、きっと必要なだろうな、ここに基づいてこういう計画があるのだからってことを考えることがきっと必要で、校長先生本当に学校でこの1年頑張っていかれるのだろうなど。ことを考えながら聞いていました。

もう1つ、どこの学校でも自己肯定感っていうことをおっしゃられていて、そうだな、すごく大事だよなと思いながら聞いていました。ただ、ちょっともう1つ、私クリニックで働いているのでその時にちょっと昨日の体験を、自己肯定感っていうのがあったので、ちょっとそれを考えながら聞いていたのですけども。「自己肯定感って何か分かんない。」っていう方がいらっしゃって、「自分を大事にするってわかんない。これが自分を大事にするっていうことが、本に書いてあったら、それをやるのに。」っていうふうに言われたんですよ。ただ、その書いてあることをやったとしても、うまくいかなかったんですよ。みたいなことがあって、自己肯定感って何なのかなと、頑張っ

いる自分、結果を出している自分を誇らしく思うことも、自己肯定感だろうし、何度か休んじゃう自分を許してあげることも自己肯定感だろうし、結局、その方と話しながら、自分が思う自己肯定感、自分が自分を大事にするっていうことは、その人の中にしかないから私が説明してあげることはできないので、あなたがあなたを大切にすることって何なのかを一緒に話していければいいんですねってことで終わったんですけども、きっとその子ども達もきっと一緒なんだろうな。

どういうことがその自分を肯定して、うれしくなるようになるのかっていうのは、個人個人できっと違うんだから、それが何なのかを考えたらいいねっていう、そういう働きかけをすることが、子ども達のためになるのかな。

そこできっとその先生と子ども達の対話、子ども同士の対話、もっと言うならその先生たち同士の対話をしながら「自分が自分を認めるってことは隣の人とは違うけれども、こうなんだ。」みたいなのがきっと大事なのだろうなと思います。

ちょっと先ほどの出来事で、きっとこれは自己肯定感がきっと高いなって思ったんですけど。

5分のこの縛りルールの中で順番にされているプレッシャーが、高まってきて仕事って頑張らないといけないって思っているときに、ちょっとアクシデントが起きて。心の小さな叫びですよ。これって入りま
すか時間に、心の小さな叫びっていうのを、こうちょっとこの場で口

に出せるっていうことは、おそらく、自分が大事にしてできているだろうなあという感じが思えたんです。そういう場を職員室でも、教室でも見せてあげたりやっていくことっていうのが、全体の自己肯定感を高めることにもなるのかな。校長先生の発表させていただきました。ありがとうございました。

以上です。

○委員（大野）はい。今日はありがとうございました。

それぞれの学校で、課題そして、児童、保護者、地域、自治体それを踏まえて、学校運営計画をとともわかりやすく説明してくださいまして、ありがとうございました。

もう皆さん言われているので、私が改めて言うことはないのですが、ちょっとこれ、感想として、ふと思ったのが、校長先生の思いだけを伝えるのではなくて、先生方からどんな思いを持っているのかっていうのを聞きましたっていうのを海田中学校だったのですが、何を大切にしたいですかって、先生方は、ありがとうを言える学校にしたい。私そこだなと思ったんです。というのが、どの学校も実態と課題っていうものを踏まえていて先生方が、校長先生と同じ思いをどれだけ共有できているかっていうところが、やっぱり課題になるんだろうと思うんです。

すごく素晴らしい学校経営計画でしたので、これを達成できるように、少しでも1歩でもできたねって、教職員と喜び合えるような、そうい

う関係を学校の中に作ってくださいなっていうのが私の感想です。

私が経験をしてきた中で、5月という時にどんなことしたかなっていうのをふと思い出したんです。今日、教育委員会会議もあるし、学校の先生、校長先生方のお話を聞くので、私、5月どんなことしてたかなと思ったら、新任のときに、研修があったんですよ。その研修は最初五日市小学校だったので、すごい人数が多い中で、話をする先生もいないし、どうしようと思っていたら、若い緑中の先生方が、「ね、話ししよう、話ししよう」って誘ってくださったんですよ。その中で困っていることはないっていうのはなくって、私ね、今、子ども達にこんなことが心配なのよっていうような形で、シャワーの如く、いろんな話を聞く場はあったっていうのが、私はすごくいい経験だったなと思うんですね。

皆さん言われたことで、最後にまとめにはならないんですが、研修、先生方と校長先生と1対1でもいいし、あるいは、先生方同士でもいいし、学校全体の研修、研究でもいいから、とにかく、語る場をたくさんやっていただけたらいいなっていうふうに思います。

先生方がいろんな思いを持っていらっしゃると思います。

先生になるっていう希望を持って就職しましたっていう人の話をすることができたんですね。そういう思いを持っているんだったら、しっかり語るっていうのが、いいねっていう話をしたことがあるんですけど。

先生方、皆さんの学校に期待しておりますので、どうぞよろしく願いいたします。以上です。

○教育長（森山）町の夢未来ビジョンとして夢と志を持って挑戦する児童生徒の育成っていうのを掲げて、学校経営計画等を落とし込んでもらうということで、今日見るだけでなく6種類、6校の解釈の中でいろんな学校経営目標があってビジョンがあってとことで、おそらくこれがまた学校の中に入り込むと、学級ごとの学年ごとの経営目標があったり、学級経営目標とかもね、反映されていたりというところがあると思います。

先ほどあったように、教育って、曖昧だからわかりにくい。逆に言うと曖昧だから自分なりのっていうところが作れる。自由とか豊かさとか、その創造性とかっていうところでいくと、若い先生だったら若い先生なりの学級経営の持ち方だったり、目標の見方、とらえ方ともあると思います。そこをやっぱり大事にさせていただきながら、それをいかに組織として学校の全体の目標に近づけていくかっていうものを、組織立ってやっていくっていうことが大事じゃないかなというふうに思っております。

各学校でしっかり、去年からの課題把握はされているというふうに、今日の中身だけでも思わせていただきました。学校の読書の不読率が高いとか、それから、不登校児童生徒の増加であったり、それからコミュニケーション能力の不足であったり、中には学校の先生方の難し

さ困り感であったりというところの今日会話の中でも出てきておりますので、しっかり学校の中でですね、その課題をしっかりと皆さんで共有されて、それが各先生方なりの解釈の中で目一杯取り組めるような、それによって子ども達の変容がしっかり表出したものが見えるようにということで、経営をしていただけたらというふうに思っております。5月、1番忙しいし、まだ落ち着かない時期ですよ。ただ今から10ヶ月ありますので、しっかり長い道のりの中で、そこを調整しながら、学校経営の方をやっていただきたいというふうに思っております。

今後、もう学校訪問が終わったところもありますけど、教育委員会会議で、訪問させていただく部分もありますし、学校行事の中で、しっかり見させていただく場面もあるかというふうに思いますので、今後1年、学校経営計画を軸にしてですね、取り組んでいただけたらというふうに思っておりますので、引き続きよろしくお願ひしたいと思います。それではちょっと早いのですがこれで一応学校経営については終わりにしたいと思いますので、校長先生方ありがとうございました。

(議案第13号)

それでは、議事の方へ戻りたいと思います。

議案第13号、海田町社会教育委員の委嘱についてを議題といたします事務局から説明をお願いします。

○生涯学習課長（下野）

それでは、議案第 13 号、海田町社会教育委員の委嘱についてご説明いたします。

この度、委嘱につきましては、校長会からの推薦について、学校関係者からの委嘱をお願いするものでございます。

候補者として提案するのは、資料 4 ページに掲載しておりますように、海田東小学校長の小村様でございます。

任期につきましては、承認された日から令和 8 年 3 月 31 日までとなっております。

以上で説明を終わります。

○教育長（森山）はい。ただいまの説明について、小村校長なので、よく知った方なんでもありますし、はい。どうでしょうか。よろしいでしょうか。

（全委員からよしの声あり。）

なければ、議案第 13 号については原案の通り決したいと思いますがよろしいでしょうか。

（全委員からよしの声あり。）

教育長（森山）異議なしと認め、原案の通りといたします。

教育長（森山）それでは、次に参ります。

（議案第 20 号）

教育長（森山）報告協議第 20 号、年間スケジュールについてを議題といたします。

事務局からお願いします。

○教育次長（新藤）はい。

報告協議第 20 号，年間スケジュールについて，教育委員会に報告するものでございます。本件につきましては，各課長からご説明いたします。

○学校教育課長（立田）初めに学校教育課の年間計画についてご説明させていただきます。資料の 6 ページから 7 ページになっておりますがご覧ください。座って説明させていただきます。まずは今月ですが，24 日土曜日，小学校の運動会。31 日土曜日中学校の体育祭ということ，予定をされております。小学校につきましては，9 時頃開会予定でございます。中学校につきましては，1 時半頃開会予定でございますが，またすぐにご案内を郵送にて送らせていただこうと思っておりますので，ご参加の方どうぞよろしく願いいたします。それから 7 ページでございますが，10 月です。10 月 22 日，海田中学区公開研究会が東小学校で行われる予定でございます。それから，10 月 29 日水曜日には海田西中学校区の公開研究会が海田西小学校の方で行われる予定でございます。近くなりましたら，ご案内をさし上げる予定ですので，こちらの方もよろしく願いいたします。最後に，令和 8 年 1 月の予定でございますが，ここには 23 日金曜日に海田町子ども議会というふうに予定をしておりますが，海田中学校の修学旅行と重なってしまいましたため，日程を再調整いたしました。改めて，26 日月曜

日に開催する予定としておりますのでどうぞよろしく願いいたします。主な予定につきましては以上でございます。

○生涯学習課長（下野）続きまして、生涯学習課の説明をさせていただきます。座って説明させていただきます。10 ページをお願いいたします。11 月、12 月なのですが、本年度の千葉家の特別公開につきましては、11 月の 21 日から 12 月 2 日を予定しております。先ほど小谷館長の方からもありました通り、昨年度、旧千葉家住宅座敷棟建築 250 年記念事業を行っておりますので、その中でできました、新たな関係者、各学校、海田高校さんでありますとか、国際学院高校さん、そういったところとの繋がりを、活用しながら、関係課、かいたブランド課と連携した事業展開のほうを計画しております。続きまして、11 ページをお願いいたします。今年度の二十歳のつどいにつきましては、1 月 11 日に織田幹雄スクエアにおいて実施を予定しております。こちらにつきましても、また、近くなりましたら皆様に、ご連絡させていただこうと思っておりますのでよろしく願いいたします。

同じく 1 月 31 日なのですが、おんかつコンサートの実施を予定しております。公共ホールを拠点とした身近で親しみのあるクラシック音楽の公演事業として、昨年度はチューバとピアノのコンサートを行っておりますが、今年度はバリトンとピアノのコンサートを予定しております。こちらにつきましては織田幹雄スクエアでメインのコンサート、28 日、29 日におんかつアクティビティとして、小中学校や各施

設の方に周りまして、ミニコンサートの方を実施することを予定しております。以上で、生涯学習課の説明を終わります。

○教育長（森山） はい。

それではただいまの行事予定、年間スケジュールにつきましてご質問等がございましたら、お願いします。教育委員の皆様がご出席される予定を中心にご説明させていただいてそれ以外はですね学校だったり、研修だったりですねそれから地域の行事だったりということなので、年間予定は入っているのですが、よろしいですか。

（全委員からよしの声あり。）

はい。また、月々の予定につきましては各月の教育委員会会議の時に、詳しくご説明させていただきたいというふうに思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、次に参りたいと思います。

（議案第 21 号）

教育長（森山） 報告協議第 21 号、令和 6 年度小中学校卒業生の進路状況についてを議題といたします。事務局から説明をお願いします。

○学校教育課主幹（結城） 失礼いたします。報告させていただきます。報告協議、第 21 号令和 6 年度小中学校卒業生の進路状況についてご報告いたします。資料 13 ページをご覧ください。座って失礼します。小学校から説明いたします。

海田町内中学校への進学者数合計は 241 名となっております。

海田町以外の公立中学校への進学者合計は 10 名。

国立県立私立中学校への進学者合計は 37 名となっており、前年度より 7 名増となっております。

次に中学校の状況を説明いたします。

高等学校への進学者は 231 名、となっております。

詳細は資料 14 ページのとおりでございます。割合のところを見ていただくと、公立の全日制が 50.9%となっております。これは昨年度より 1.1%増となります。私立の全日制は 33.6%で、これは昨年度より 5%減となります。通信制やフレキシブル制の学校への進学者が昨年度より 4.1%増えており、それらを希望する生徒数が増えたことが理由とされます。

以上です。

○教育長（森山）はい。じゃあ、小中学校合わせて卒業生の何か質問がございましたら、お願いします。

○委員（大野）小学校なのですが、海田南小は矢野中に行くって、海田中以外の公立中学校の進学っていうのは矢野中とかですか。

○教育長（森山）その他、どうでしょうか。小学校の方でいくと海田小と海田西小合わせて 17 名の、いわゆる国立私立県立ですよね。東小と南小合わせて 20 名なので、学校規模が倍半分なんですけど。私学等への転出はかなり、西中学校区が多かった。

中学校から高校への進学というところで、国際学院高校ってどれぐら

いおるか、数値あります。

○学校教育課長（立田）どのぐらいかっていうのは、正確な数字は出てこないんですけど学校規模にもよるんですけど、各学校に数名ずつは、いるかなっていうところで、国際中学校の方です。

西中学校は7名です、ありがとうございます。高校は多いです。

○教育長（森山）どうですか。何かご質問あれば。社会的な情勢というか国の施策がちょっといろいろ動いていて、1つは私学への助成っていう形で、いろんなとこでささやかれていますけど公立高校離れですかねこれが町内でどういう影響を特に海田町なんか、アクセスがいい場所に私学がいっぱいありますので、この辺がちょっと公立離れっていうところと、議論がどこまで進むかわからんですけど、複数受験ですかね、公立高校複数受験というところが、おそらくここの数年の課題。

私学に寄っていくような状況が見えるんじゃないかなっていうところがあったり、公立高校の昨年度県は、定員1割りましたかね、確か、全体の平均なので、海田高校とか割ってるわけではないんだけど、0.98とかだったと思うんですよ。

となるところら辺でいくとやっぱり海田高校、それから安芸南、安芸府中、熊野くらいですかね、大きくそこら辺のところ、定員を割ってくる可能性も出てきますので、その部分はちょっと公立頑張らないといけないのかなっていうところは、非常に、思います。

ですが町内においては選択肢が多い地域なので、そこは有効に活用しながらですね、高校の進路選択も含めて、指導していかないといけないのかなと思っております。

最近はやっぱり、定時制、通信制、フレキシブルっていうところが多いですね、いろんな私学の通信制なんかいろんなメニューを持っておられるんで、その部分に飛びつくところもあったりしてですね、なかなか、難しいなっていうところあるんですけど、よろしいでしょうか。

(全委員からよしの声あり。)

○教育長（森山） それでは次に参ります。

(議案第 22 号)

報告協議第 22 号、特別支援学級等の状況についてを議題といたします。事務局から説明をお願いします。今日、お渡しした別紙になるかと思えます。これ後で回収をさせていただきますので、よろしく願いいたします。教育委員会の事務局の方からお願いします。

○学校教育課主幹（結城） お願いいたします。報告協議第 22 号、特別支援学級等の状況についてご説明いたします。資料をご覧ください。教育支援委員会を令和 6 年 10 月 10 日に第 1 回、令和 7 年 1 月 16 日第 2 回を行い、令和 7 年度に小学校に入学する児童を含め、審議を行いました。

それぞれの障害の状況に応じてきめ細やかな支援が行うことができるよう、学校と連携して参ります。以上でございます。

○教育長（森山）はい。それではまず、特別支援学級の在籍状況ということなんですが、特徴というか、海田東小学校がやっぱり多いっていうのが海田南とか学校規模でいうと、学校規模の割に、逆転をしまして、かなり海田東小学校が特支について多い現状があって、あとは、学校規模、そうですね。それでもやっぱり、海小なんかも多い状況なので、学校によるのかなあというところがありますね。なんか高木指導監、去年の教育支援委員会で、気になったこととかあってありましたか、どうですか。

○教育指導監（高木）教育相談に来られる方は、やはり、一番心配されているコミュニケーションとか、そこら辺が非常に難しく、通常学級よりも個別がいいというふうにそれを望まれてきています。特徴的には発語が5歳からの方が共通的にすごく多かったです。そういう部分でやはり少人数とか個別の部分で学習させたいという方が増えています。

○教育長（森山）ご質問あったらどうでしょうか。

○委員（竹岡）よろしいですか。海田東小とかここ数年で割合がすごく増えているような気がするんですけど、先ほどおっしゃられた感じを聞くとその保護者の方の方が積極的に、特別支援学級を望まれているようなふうに聞こえますけど、そういう親御さんが増えてきたっていうのが、感覚としてみたいな話になるのですが。もしかするとそういうその検診の時の早めの関わりみたいなところから、親御さんも家

族も早めに審議して、そういうところがあるのかもしれないです。

○教育指導監（高木）やはり情報をすごくお持ちで、偏った方もおられたりしますが、教育相談をされるなど行動をされています。幼稚園や保育園も、体験入学をして、集団生活が難しいなどの判断されながら、小学校に入学することにすごく不安を感じておられます。

○委員（竹岡）生活して、何か良かったって思ってもらえるような、感じになるといいですね。

○教育指導監（高木）そうですね。

○委員（大野）特別支援学級の、情緒の方で、それぞれの学年、1つ上がるごとに委員会に出られますよね。特別支援学級にするかどうか、それで、高学年になるにつれて学級が変化するっていうのは、ありますか。

○教育指導監（高木）いや、小学校はないんですけど、小学校が中学校に行くときに、自閉情諸とかですね、通常学級に、やっぱ進路のこととか、勉強面を考えて、そういう変えられる改級される方はいます。

○委員（米丸）3歳児健診で症状が出てればいいんでしょうけど、今年から子ども課は5歳児健診に沿って、また、そういう意味では、就学前、そういう、グレーゾーンが増えるのは、減ることはないと思うので、そういうところに、どうしても、おそらくね、個別でそういう対応できてるとか、町内で安心できる対応なのでとは思っています。

○委員（林）小学校なんか特別支援学校へ行かせたい。特別支援学級

で、普通の小学校でそういう分かれてきます。

○教育指導監（高木）あります。最初の段階で、特別支援学校の方は、最初の段階で希望されています。

○委員（林）特徴がありますか。悩まれる方と、もうスパッとというか、そちらの方で育てて行って欲しいなっていう。

○教育指導監（高木）やっぱ特別支援学校選ばれる人は、やはり環境面の充実や、専門性の高いところで、教育させたい思いで、見学をされています。特別支援学級と比較をされて、決められております。

○委員（林）東雲小学校で軽度の知的で入れるというあれ。見学に来られたり、いろいろしながら、ありましたので、環境がうまくいけば、その子にとってふさわしいになるんですよね。小学校の方でそういう環境を整えようとする、どれくらいのことをやらなきゃいけないのかなあと、そう思ったりもして、教育委員会の、姿勢だと思うんですけど。

○委員（竹岡）同じ意見です。先生は、保護者の方も地域の方も保護者の方の声を聞くと、地域でとか、こういう固まった考え方じゃなくて、この子の良さ、この子が社会の中で生きていくように育てて欲しいんだって。そういう教育をどこがしてくれたね。っていうような形で、社会の中で、生きていける1人の人間として育てて欲しいっていうのは、特別支援学校では、例えば自分の個性を伸ばしてもらえとか。多分そういういろんな思いがあるんだらうと、自分の思いで育

っていく中で、やはり寄り添って聞いてくれる、そして、寄り添ってその子にこういうことだと思いますよっていう風に言ってもらえる場所はどこなんだろうっていうのをいろいろ探してらっしゃるっていうのを、切実に感じるので、これからどんな姿になるのが、いいのかなっていうのを考えるってことです。

○学校教育課長（立田）学校ではそこまで詳しく、ここはちょっと難しいです。特別支援学校では、こういう力がつきますよね。だから、将来こうなりますっていうようなことを具体的に話すことによって、どうしても地域の学校でっていうふうに思われてた保護者が特別支援学校の方にちょっと検討してみようかなっていうふうに思われたり、特別支援学校に入学されて、後日会った時にあの時に言っていたいで、特別支援学校に入学させてよかったですって言っていたいく例もあったので、やっぱり情報提供っていうのはすごく大事なのかな。そのためには、学校の教員もそうですし、私たちも知識として学ばないといけないことがあるのかなと思います。

○委員（大野）グレーゾーンの子ども達，児童，生徒のその子ども達の育ちっていうのをどういう風にしていくかっていうのが。

○学校教育課長（立田）6年間，義務教育課程が終わった後に，こういうふうに育っていった例がありますよっていうようなことを5歳6歳の子どもさんを持っておられる保護者の方にお伝えすることによって，豊かな人生ではないですけど，そういうふうに将来を見ていただ

いて、じゃあ我が子は特別支援の子っていうようなことを、保護者に納得してもらうのが大事なことだと思います。

○委員（林）小学校と中学校の間、毎回知るっていう中で、その子どもを起点にしながら、学校経営っていうのを考えているような、そういう視点も必要なんなんだろうと思うんですね。そのためには、手厚い。

○教育長（森山）手厚いですよね。はい。

○委員（林）そこは教育長難しいところです。

○委員（竹岡）ちょっと聞いてもいいですか。進路、小学校から中学校の進路の話が出ていたんですけども、中学校から高校への進路のときに、特別支援学級の子たちの進路で、特別支援学校に行っている子っていうのが、本来であれば海田中学校2だけなんですけども特別支援学級の子たちの進路というのは、こんなふうに記憶に残っていることだけでいいので、過去の通信制とかフレキシブルが増えてきて、多様な子たちが特別支援学校でなくとも、受け入れてもらえるところがある。

そういうところの選択肢というのは、特別支援学級の子っていう選択肢は増えてきている。

○教育指導監（高木）通信制のお子さんの方が多いですが、全日制に入学されている生徒もいます。特別支援学校は肢体不自由の生徒です。

○委員（竹岡）別に私、特別支援学校を勧めるわけではないんですけ

ども、長い人生を見据えたときに、高校の次に進学、さらに進学するか、就職するかっていうことを考えたときに、特別支援学校、社会に出ることっていうのをすごく意識されて、どう就労していくかみたいなどころがあるので、特別支援学校もとても良い選択肢だと思うんですけどね勧めるわけではないんですけれども。そういう、本人の希望、親御さんの希望なんだけど、その希望の向こうにあることっていうのを見据えながらの進路指導っていうのは、特別支援学校もいろんなメニューを考えて、その就職に向けてっていう、バックアップされているので、そういうことを情報として入れながら、何か選んでいっていただければいいのかなっていう、ちょっとありました。

○教育指導監（高木）この点は小学校の特別支援学級の担任が心配しています。小学校段階から、やっぱりその先ですね高校っていうところを見据えた、保護者と連携していきたいから、中学校から、そういう連携をさらに深めていきたいという声がたくさんありますので、やっぱりそういうところを見据えながらですね、やっていく必要があると思っています。小学校段階でも保護者の方からの相談が多いです。

○委員（竹岡）そうなんですね。

○教育指導監（高木）はい。

○教育長（森山）いろいろ、進路について選択肢がね、今広がってきているし、保護者の方がやっぱり情報をしっかりとらえて、支援に関してのやっぱり許容が増えてきているので、ニーズも増えてきているから、

保護者の思いにかなった進路先も、一定程度選んで調べてあげるとい
うことにはなっているんですけど、保護者の思いだけが先行せんよう
にせんといけんと。ちょっと大事ですかね子どもの感情，状況に応じ
て適切に判断をするっていうところで、保護者の思いで進路が決まっ
てしまったり，逆に言うと，子どもは本当は特別支援学校がいいんだ
けど，家庭環境の中で送り迎えがとても難しいとか，いうところの中
で，どうしても地域についていう話もあったりするので，やっぱり子ど
もにとってどうかっていうところの視点は外さないようにして，最終
的には社会に出て活躍できるというか生活していけるっていうところ
はベースに考えていかないといけないのかなってのは，毎度，個別に
見たときにもそうですけど，ありますけど，やっぱり難しいですね。
なかなかそこは判断としてこれがよかったのかってのは後で結果が出
るので，そういうところはありますね。

○委員（大野）1つだけいいですか。ちょっと今と話が変わるんです
が，就職1名っていうのは，中学校卒業して。

○学校教育課長（立田）はい。

○委員（大野）続くといいですよ。祈るばかりです。

（議案第23号）

○教育長（森山）はい。続いて報告協議，第23号通級指導教室の状
況についてを議題といたします。事務局からお願いいたします。

○主幹（結城）お願いいたします。報告協議，第 23 号通級指導教室の状況についてご説明いたします。座って，失礼いたします。

資料をご覧になってください。

令和 7 年 1 月 16 日の教育支援委員会小委員会などによって審議しました。学校生活の中でコミュニケーションの困難さの自覚や教科の内容が難しくなり，不安が大きくなるなどして，通級を希望する傾向があるように思います。

通級指導学級では，一人一人の実態に応じた指導や支援を行い安心して学ぶ中で，自信や意欲を高めていけるよう，先生方が工夫して子ども達と関わっております。

なお新 1 年生に関しては入学後の学校生活の様子などから学年の途中で入級が必要な場合は 2 学期以降に検討して参ります。

以上でございます。

○教育長（森山）海田東小は 2 学級でしたっけ。2 名の措置。海田南小学校も 2 名の措置。海田中学校も 2 名。ということなので学級にすると 9 ですね。ということで，措置をしていただいていると。あと，障害の種別でバーが入っているのは，どう解釈したらよかったですか。

○学校教育課長（立田）今まだ診断をしている。診断途中だけど，特性傾向は見られるという子たちについては，もう入級していて，診断書は後追いということになります。

○教育指導監（高木）1 年生は 2 学期 10 月ぐらいに，やっばつまず

きが出てきて、ちょっと体験させたいっていう声が増えます。

○教育長（森山）海田町は、さっき言った6校に対して9学級の設置なので、多分割合的に一番多いんですよ。県内の23市町の中で、学校数に対するわけですかね。しかも全部、所属校に設置されてますので、1つは7年目か8年目になりますけど、この人数がやっぱり通級としての部分が充実してきてるので特別支援学級への移行も増えて、途中段階から、だから、特別支援学級の人数の増にも繋がってるのもあって、ステップじゃないんですけど、様子を見ながら、判断をしてっていう状況があるので、特別支援を進めていく上ではいい環境、段階的にはいい環境なんだろうと思います。

ただ増えることがいいことというよりもどこまできちっと対応できるかっていうことで今後大事になってくるので、特別支援学級の増と合わせて見ていただけるといいかもしれないです。

○委員（竹岡）おっしゃられた通り、通級選んで良かった、個別最適な学びによって力がついたと思えるような海田町での義務教育が過ごせたら本当にいいなって思うので、大変なんだと思いますが、

○委員（大野）大変だと思います。その通級学級だけじゃなくってその親学級というか、普通学級の児童生徒の心の、豊かさもやはり育てていかなくちゃいけない。

そういう人たち、一緒に生きていくっていう、雰囲気っていうか社会っていうか、心を育てていくっていうことも海田町、力を入れていけた

らいいなって思いました。

○教育長（森山）制度的にはだから通級指導がやっぱり増えてきてますんで教育支援委員会を通級だけ個別で今設定してやっていますので、特別支援学級の方の就学指導と、通級の、就学指導をちょっと分けてやっています。それが3年目ですかね。

あと合わせて、別の一覧、これが学年別の一覧になってますんで、これあと参考で、見ていただけたらと。

（議案第25号）

○教育長（森山）報告協議、第25号各行事の開催及び結果等についてを議題といたします。事務局から説明をお願いします。

○教育次長（新藤）はい。報告協議、第25号各行事の開催及び結果等について、教育委員会に報告するものでございます。本件につきましては各課長からご説明いたします。

○学校教育課長（立田）

学校教育課分を報告させていただきます。

事前にお配りした提出した資料で書いてないところがございましたので、本日、差し替えで1枚つけさせていただきます。

座って報告させていただきます。

5月の行事からです。小学校、中学校の運動会、体育祭については、先ほどの年間予定の方で説明させていただきました。28日水曜日、

令和7年度広島県，市町教育委員会連合会定期総会の方には教育長が，ガーデンパレスの方でございますので，教育長が出席することになります。

6月の予定を説明いたします。まず，12日木曜日，教育委員会会議定例会，海田東公民館の方で開催予定でございます。26日市町村教育委員会研究協議会の方は昨日メールで，お伝えをしておりますが，参加していただく方についてはまたご相談ください。

30日月曜日，広島県女性教育委員グループ総会及び第1回研修会の方が開催予定でございます。学校教育課からは以上でございます。

○生涯学習課長（下野）はい。それでは，生涯学習課から説明させていただきます。座って説明させていただきます。

まず，5月の行事ですが，先月もさせていただきました通り，13日から，ふるさと館が空調設備修繕工事として臨時休館させていただいております。

こちらにつきましては，5月に予定通り5月23日までで，工事が完了し，24日以降，開館予定となっております。

つきまして6月なんですけど，22日，日曜日に海田町キッズスポーツフェスティバル2025が，こちら海田町文化スポーツ協会さんらが主催していただいて，海田西中学校で開催予定となっております。

サッカー，ソフトボール，バドミントン，バレーボール，空手といった，スポーツについて，子ども達に紹介するというふうになっており

ます。以上で生涯学習課の説明を終わります。

○教育長（森山）

ありがとうございました。ご質問等がありますでしょうか。

先ほどの視察とかですねそういうところはまた改めて、ご説明させていただくことになるかと思えます。

はい。

それでは、これで報告協議については終了させていただきます

10：59 終了